

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 21 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22730703

研究課題名（和文） 農業高校における農業を通じた障害者教育の展開と課題

研究課題名（英文） The Problem and the Direction of the disabled person education by the agriculture at agricultural high school

研究代表者

阿部 英之助（ABE EINOSUKE）

東洋大学・現代社会総合研究所・客員研究員

研究者番号：10408982

研究成果の概要（和文）：本研究は、農業高校の地域連携教育の中で、特別支援学校との連携について着目し、その教育的効果や手法など体系的に調査研究を行った。昨今、農業高校では特別支援学校などが併設される傾向が多くなっており、「農業」分野における「福祉」的視点からのアプローチが始まっている事が明らかとなった。

具体的には、特別支援学校の分校が併設されている農業高校に、継続的な調査を行った。特別支援学校の分校と農業高校との「共同授業」は、従来の教師主体による「知識・理解」に留まらず、さらには農業高校生が、特別支援学校の生徒に「技能・表現」を伝える事が、生徒自身に「伝える力」といった新たな学びの形成になりうる事が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The present study researched the focus in the Problem and the Direction of the disabled person education by the agriculture at Agricultural high school. As the latest tendency, there is a tendency for Special-Needs Schools to be established agricultural high school. That is, it became clear that the approach from the viewpoint of the welfare in the agricultural. As a method of research, it investigated to Special-Needs School and Agricultural high school. It became clear that it is effective becoming new learning in an agricultural high school by Collaborative learning of Special-Needs School and Agricultural high school.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：農業高校・農業教育・障害者教育・農の多面的機能・職業教育

1. 研究開始当初の背景

昨今、農業高校の広大な土地や空き教室を

活用し、「特別支援学校高等部」などが同じ敷地内に併設される傾向が多くなってきている。その背景には、特別支援学校の高等部に通う生徒の急増があり、生徒数は平成 13

年には4万1206人であったのが、21年には5万3093人まで達しており、支援教育に対する理解の浸透と、高等部への進学への希望が高まっていることにある。

農業高校の側では、学校統廃合や学科再編による空き教室の増加やこれまで特別支援学校との農業を通じた交流などの実績などから農業高校の敷地内に特別支援学校が併設される傾向が有る。また、再編による農業関連教科の教員の多くが、特別支援学校へ配置転換がされるなど、農業科教員における障害者福祉に対する理解やその教育方法の確立なども差し迫った課題となっている。全国各地で、農業高校と特別支援学校との教育連携が進む中で、農業教育における「福祉」的視点からのアプローチが始まりつつあるといえる。

その一方で、「特別支援学校」においても、「農業」を通じた教育実践が行われてきている。これらの取り組みは、「農業体験」の域を超え、「農業の分野の特性を活かした職域」を視野に入れた教育実践につながりうるものと考えられる。このことを示すかのように、平成14年度「障害者基本計画」における後期5年間の「重点施策実施5カ年計画」（平成19年度～平成24年度）においては、「農業法人等への障害者雇用の推進」が明記された。このことを示すように、平成21年度から（独）高齢・障害者雇用支援機構の調査研究（研究テーマ：「農業分野の特性を活かした障害者の職域拡大のための方策に関する調査研究」）が行われ、研究代表者は外部研究評価委員として、「農業」と「障害者」そして農業の持つ教育的な可能性について調査研究を行った。

このような社会的背景と現状を踏まえつつ、「農業高校」における「農業」を通じた「障害者」教育的意義と課題を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の目的

本研究では、農業高校がこれまで実践してきた障害者との教育連携とその教育実践の整理と課題を明らかにし、教育実践モデルを提示することとした。すなわち、農業高校を通じて「農業」の教育的可能性を明らかにするとともに、障害者への「農業」の特性を活かした「職域拡大」の可能性と教育的連携なども踏まえ、調査研究を行うことを研究目的としている。

3. 研究の方法

本研究では、農業高校がこれまで実践してきた障害者を含めた教育実践の整理とその課題を明らかにしていった。とりわけ、障害

の度合いに応じた農作業の内容やその教育的効果などについて、農業高校担当教員・特別支援学校教員への聞き取り調査から明らかにし、その現状と今後の課題を提示した。

また、生徒への聞き取り調査も併せて行い、障害者との関わりが生徒たちへの障害者理解教育に反映していくのかも検討していくことを試みた。

具体的な研究方法としては、農業高校内に特別支援学校が併設され、障害者を通じた教育実践などの実践している静岡県とT農業高校と関西方面で園芸福祉に力を入れている岡山県のT農業高校の現地調査を中心に行い、あわせてそこでの教育実践の事例分析を行った。これまでに、複数回にわたり、農業高校と特別支援学校との合同授業などの授業見学を行った。そこでは、担当教員への聞き取り調査や年間授業計画、授業展開などの聞き取りも併せて行い、取り組みの課題や展望等を把握することが出来た。また、あわせて知的障害者や重度障害者との農業を通じて合同授業の取り組みなども視察し障害の度合いに合わせた取り組みの違い等比較することも出来た。

4. 研究成果

(1) 農業高校における障害者教育

現在、農業高校がこれまで目指してきた農業自営者の養成という「一元的な農業教育」から、「多元的な農業教育」へとその教育の裾野が広がりつつある。すなわち農業高校がこれまで行ってきた農業後継者育成や農業技術教育にとどまらず、小・中学校と連携した学習など、個々の取り組みを通じて「農業に対する理解を深めるための教育」という視点から地域と様々な形で結びついている。

元来、農業高校と地域との結びつきは歴史的にも深く、地域農家への生徒の委託実習、地域住民への農産物販売や学校施設の開放を行ってきた歴史を持っている。また、昨今他の学校種との結びつきも強く、地元の保育園・小中学校さらには特別支援学校などの連携教育も行われ、農業高校の新たな教育展開が行われてきている。農業高校と特別支援学校との関わりも古くから行われおり、農文協『農業教育』には、兵庫県立氷上高等学校の「小学校・養護学校と連携して新しい教育・農高づくり～生徒が教えるなかで学ぶ『課題研究』～」(47号,1993年)がとりあげられている。また、その連携内容は、「リンゴのもぎ取り」や「動物とのふれあい」などが行われてきているが、それらの教育的効果やその手法など体系的にまとめたものは、数少ないと言える。

(2) 現地調査と教育実践分析

本研究では、調査対象校として、静岡県の T 農業高校と岡山県の T 農業高校に継続的な調査研究を行った。

静岡県の T 農業高校では、同高の校舎内に特別支援学校の分校が併設され、「共生・共育」の取り組みが行われている。平成 14 年から「ユニバーサル園芸」の学習として、特別支援学校との「交流授業」と「共同授業」が行われている。特別支援学校の生徒が農業高校の各学科の授業に参加し交流を深める「交流授業」と同高のセラピーコースの生徒が特別支援学校の生徒に農業を教える「共同授業」(インタープリテーション)がカリキュラムとして組み込まれている。すなわち、イベント的な取り組みではなく、授業として継続的な関わりが行われているのが特徴である。特に「共同授業」は、イベント型の「体験学習」から生徒の学習や生活の一部とする「経験カリキュラム」への深化が目指し、植物の生育を共に体験する「通年型交流活動」となっている。そのため分校が同高内に併設されても従来の交流活動が土台にあったため、大きな問題なく進めることが明らかとなった。さらには、生徒の進路先として、福祉関連施設への就職が増加したことなど生徒の障害者意識と進路形成との関わりと言った、新たな課題等も出てきたと言える。

後者の岡山県の T 高松農業高校では、「生物活用」の展開として「園芸セラピー」の講座と初級園芸福祉士の資格取得など療法的手法を取り入れ、農業高校の特性を活かした学びの展開を行っている。とりわけ「芝人形づくり」では、地域の方を交えた講座の開設や学校周辺への障害者施設での出前講座など積極的に行われている。そのことが生徒の学びへの意欲や障害者理解へ繋がっている事も明らかとなった。

しかし、2校の取り組みは、農業高校では先端的な取り組みであるが、多くの農業高校にまだ広がりが見られない。そこには、農業高校教員の障害者福祉に対する理解不足やそこでの授業展開方法のノウハウがないなど、多くの課題がある。

今後の課題としては、農業高校と特別支援学校との「交流・共同授業」に向けての授業モデルの構築にむけた教材開発とマニュアルの作成が必要である。特別支援学校の視点からは、障害の度合いに応じた農作業の内容<定植・種植え・耕運機や草刈り機による作業など>やその運営方法などについてである。

農業高校の視点からは、最初に担当教員及び生徒への障害者理解にむけた事前ガイダンスなど「交流事業」にむけて導入に向けた授業展開についてより掘り下げて行く必要

があることが明らかとなった。

(3) 農業高校における「学び」の展開

農業高校では、これまで生産的・経済的価値そして環境的価値がその学習として取り上げられてきた。しかし以前から農業教育は、人間形成に役立つ事が言われ、動植物を栽培飼育することで優しい心や根気強さ、責任感など人間形成に必要な力が育つことが指摘されている。

学習指導要領では新分野として「ヒューマンサービス領域」の科目が新設され、現在、多くの農業高校が、既にヒューマンサービス系の科目として「生物育成」と「グリーンライフ」が実施されているが、その教育内容は実態が掴めておらず、その授業展開が課題となっている。

本研究で事例分析を行った、特別支援学校との「共同授業」と「交流授業」が「生物活用」における「対人サービス実習」としての可能性を持っている事が明らかとなった。とりわけ、農業高校で学んだこと<知識・体験・技術>を誰にでもわかるユニバーサルなものにして他者に伝えることが、新たな農業高校の「学び」を示すものとして捉える事が可能である事も明らかとなった。すなわち、生徒が学んだ農業技術などの知識・理解の「学び」を実際に特別支援学校の生徒にどのように教えるといった「練習・思考」そして、実施に「共同授業」での「伝達」といった授業方法の構築とそこでの課題や教育的効果を明らかにしていくことで、生徒に対する農業教育の教育的効果としてこと把握することが可能となる。また、授業法などにファシリテーション法やインタープリテーション法の活用やその為の教材作りなどを現場教員と共に、共同開発することも今後の課題となった。

現在は、「見えやすい学力」による学力 <知識・技能>が求められがちであるが、一方で「見えにくい学力」といった成長<他者から褒められる・伝えることができた>などといった体験学習のスキル作りやヒューマン系の学力と職業教育との結びつきをどのように設定・評価をしていくが重要であり、今後の研究課題としていきたい。

(4) 農業高校の新たな学びの展開

全国の農業高校は、少子化や進路の多様化の中で単独農業高校をなくし総合高校に再編する動きが加速化するなど農業高校も、厳しい現実におかれている。既に述べてきたが、農業教育は、人間形成に役立つ事が言われ、人間形成に必要な力が育つといった「農」が持っているその教育的効果は、数値化しづら

い面があり、「農業教育に効果がある」という前提で調査されているものや、情緒的・精神的なものとしての捉え方が多く、捉え方そのものに難しい面がある。農業教育が、将来どのような知識と結びついて本物の認識となっていくのか。生徒達にいかなる影響を与え、農業観・食生活観が形成され、いかなる技能体験が他の学びと結んで転移されるのか、といった点を今後より一層深めて行く必要があるといえる。本研究において明らかとなった障害者との交流を通じた「共同授業」を通じての農業高校における学びの意義とその教育的効果について継続的に調査研究を続け、今後の研究課題として行きたい。

(3)連携研究者 (0)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

①阿部英之助、「農業高校と地域社会との連携」、『平成 23 年度産業技術・情報技術等に関する指導者の育成を目的とした研修～高等学校農業～報告書』、査読なし、2011 年、12-23 頁

②阿部英之助、「学校統廃合と地域社会」、『高校のひろば』、査読なし、Vol. 81、2011 年、48-52 頁

③阿部英之助、「『学ぶ意欲』と『学ぶ意味』を問う教育とは」、「教育の広場 ながの」、査読なし、No75、2010 年、1 頁

〔学会発表〕(計 3 件)

①阿部英之助、「農業高校の存在意義とその役割」、日本産業教育学会、2011 年 10 月 23 日、宇都宮大学

②阿部英之助、「農業高校と地域社会との連携」、『平成 23 年度産業技術・情報技術等に関する指導者の育成を目的とした研修』、招致講演、2011 年 8 月 10 日、静岡県三島市

③阿部英之助、「農業高校における進路意識形成と地域格差」、日本村落研究学会、2010 年 11 月 20 日、長野県別所温泉

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 英之助 (ABE EINOSUKE)

東洋大学・現代社会総合研究所・客員研究員

研究者番号：10408982

(2) 研究分担者 (0)